

寄稿

自然と共に生きる小田原を

おだわらを拓く力 加藤 憲一

歴史、文化、産業、市民活動・・・小田原は豊富な地域資源に恵まれています

その代表が、岩手県葛巻町。北上山地の中央に位置し、林業と酪農以外はこれといった産業もない典型的な中山間地の過疎の町でした。経

が、その全ての基盤となっ

過疎化に悩む葛巻を狙った産廃処分場計画でした。経済を優先して現金収入を求めると、厳しくとも自然環境と共に生きる道を選ば

ているのは、この豊かな自然環境に他なりません。こ

境への貢献は勿論、生活環境の改善、定住者の増加、一年中吹く風を活かした

こには、人間が生存するた

たが、京都議定書の追い風も味方につけて、国内自治体では草分けとして風力発電

めに必要な自然環境が、全

の誘致を推進。更に、ふんだんにある木材資源、沢水、太陽光、畜糞尿も活かし、

て整っています。地域が元

あらゆる自然エネルギーの導入を進めます。電力の地域自給率は、何と185%。

気を失いかけている今こそ、

酪農関連事業やワイナリーの成功もあり、全国から年間50万人もの来訪者を迎えるに至っています。

市民生活の充実と安定や、

実は、自然エネルギー導入の引き金となったのは、

地域経済の振興などを目標

おだわらを拓く力 (加藤けんいち後援会) 代表/飯田和

す取り組みに、この自然環

小田原市栄町2-13-1-2F TEL0465-21-5260 http://www.katoken.info 加藤憲一日記 更新中!



かとうけんいち：1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長などを経て、現在有限会社あしがら総研代表。妻と子ども二人の4人家族。